世田谷村日記

石山修武

六月五日

八時四十五分妙高寺へ。打ち合わせ。十時世田谷村。ユタ州の婦人二名帰国。十一時半大学橋本さん来室。昼食を一緒する。十三時教室会議。十八時三〇分明日のレクチャーの準備を終えて世田谷に戻る。

六月六日

六時屋上菜園に上り二種類の朝顔の種をまく。二日程水につけておいた種なので今度は芽を出すだろう。菜園の朝は良い香りに包まれて気持が良い。。少しばかりの設計メモを記す。

今日の院レクチャーで何を講じられるか、一時間半の時間は重要だ。時々、現場で良い考えを得るように、講議だって私にとってはある種の現場だからな。院レクチャーは設計の現場のライブでもある、時にはね。ズッーとやったら一人よがりの馬鹿だけれど、時にはやろう。

十時四〇分よりレクチャー。眼の前で居眠りしている奴がいて話す意欲がそがれる。眠るくらいなら来ないでくれと叫びたい。私だって伝えたい事があるから話しているんだぜ。

十四時李祖原と再会。上海スタジオの件、中国の仕事の件など話し合う。「早稲田スタジオGチャイナ」の名前でやろうと決めた。十二月にオープンさせる。十五時設計製図採点。少し気を入れて個人指導したので、ここ二、三年の体多落、低調さは払拭された。指導した者の大半はAクラスに入っていたので良かった。とすれば、ここ数年のドン底現象の一因は、教師の側にもあったと言う事である。李祖原と夕食を共にして世田谷に戻る。

六月七日

七時半屋上菜園に生ゴミを埋める。屋上は生命力に溢れている。九時地下ミーティング。十二時修了。十四時三〇分大学。昨日から同室に李祖原がいて、時々中国語で電話したりしているので、仲々変な雰囲気で良い。そう言えば鈴木博之にも随分会っていないが元気でやってるんだろうか。李祖源上海事務所より、大連プロジェクトの情報を得る。十五時公開講評会。二〇時半迄。どん底状態であった学科の設計製図も今年はようやく上向きで良かった。

六月八日　日曜日

今日は休める。六時「建築学の教科書」読む。鈴木さんの「建築の強さについて」読んだ。公共投資とは何かについて彼は考えているな。面白いもので文を読んでいると対面しているような気分になるな。藤森照信の「謎のお雇い建築家」読んでいると彼の背中を眺めているようだよ。「お城も宮殿も原爆ドームも」木下直之も面白かった。やっぱり歴史家の論述はイイものが多い。亡くなった坂崎乙郎の「エゴン・シーレ」岩波書店を読む。坂崎乙郎は高校時代のドイツ語の先生だった。エゴン・シーレは前から関心を持っていたウィーンの画家だが、この本を読む事で、彼が一九〇〇年代のオーストリア、なかんづく七〇〇年続いたハプスブルグ帝国のウィーンの崩壊と密接な関係を持つ鋭敏な感覚を持った画家である事を了解した。アドルフ・ロース、オットー・ワ

ーグナーとも接触していたようだ。